

平成31年度学校自己評価システムシート（県立三郷特別支援学校）

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> 仲間を認め合い、絆を深めながら楽しく学べる学校 家庭や地域と連携し、豊かな体験を通して児童生徒一人一人が自ら学べる学校 共生社会の実現を目指し、地域のセンターとしての役割を果たす学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 児童生徒が、主体的に学習に取り組む力を育む専門性の高い授業の実践 保護者、地域に信頼される開かれた学校づくりの推進 児童生徒が安心して学校生活を送れるような学習環境及び施設設備の充実
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標					年度評価（2月12日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	昨年度の授業改善を今年度に引き続くとともに、今年度は新学習指導要領に基づいた授業づくりに取り組んでいく必要がある。プランAやBに関しては、昨年度、保護者と合理的配慮について合意形成のもと作成することができた。しかしながら、授業内容に関しては、指導の核となるものなので、更に充実させる必要がある。また、教員の資質の向上も常に課題となることから、日々の研修も重要となる。更に、昨年度、本校のキャリアマトリックスを作成したことを受け、今年度は活用の方向性を探っていく。	・教育支援プランA・Bをもとに、主体的な学習に取り組む力を育む授業実践	<ol style="list-style-type: none"> ①保護者と合意形成を図り障害特性を踏まえた教育支援プランA・Bを作成し、教育活動を行う。（継続） ②主体的に学習に取り組む力を育む授業について研修を重ね、個に応じた指導の充実を図る。 ③昨年度作成したキャリアマトリックスを、児童生徒の実態把握に活用する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①一人一人の障害特性を踏まえた教育支援プランを作成し、それぞれに基づいた教育活動が実施できたか。 ②子どもたちが学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組める授業が実現できたか。 ③キャリアマトリックスを活用し、児童生徒の実態を担任間で共通理解できたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①保護者と合理的配慮について合意形成のもと、プランA・Bを作成することができた。 ②教職員の研修会を計画どおり実施し、個に応じた指導を充実させることができた。 ③教育課程委員会のリードにより、キャリアマトリックスを学級経営案に添付し、児童生徒の実態把握の資料として活用を始めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援プランに基づいた教育活動の充実に向け、次年度も研修会等へ積極的に参加し、教員の資質の更なる向上を目指す。 ・今年度キャリアマトリックスを活用していく中で、文言の修正や内容の変更修正を来年度も引き続き進める。また、活用方法については研修の必要性も含めて検討を進めていく。
2	昨年度は学校ホームページに加え、三市の広報誌や最寄駅の掲示板など、情報提供を積極的に行った。学校行事への参加者数が増加するなど一定の成果が見られたことから、今年度もPR活動を強化し、本校の教育活動について理解を広めていく。 地域の小中学校からの巡回相談等の評価も高く、信頼性も高まってきている。引き続き、関係機関との連携・協力を深めながら、特別支援教育に関するセンターとしての機能を高めていく。	・学校PRの強化とセンターとしての役割	<ol style="list-style-type: none"> ①三郷市以外にもPR活動を広め、本校の教育内容について、更に理解と関心を深める。 ②学校ホームページを更新し、迅速な情報提供を行う。 ③コーディネーターを中心として、相談支援・地域支援や支援籍学習、ボランティア養成講座の充実を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校公開日や文化祭への来校者数は増えたか。 ②学校ホームページにより、保護者が必要な情報を得ることができたか。 ③保護者や地域のニーズを踏まえ、計画的かつ適切な支援が実現できたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①予定どおりPR活動をおこない、学校公開日の参加者数も28%増となるなど、本校への理解と関心を高めることができた。 ②通常のホームページに加え、緊急用ホームページを開設・周知、緊急メールとの併用活用により、迅速な情報提供が実現できた。 ③巡回相談等のニーズを踏まえた支援ができた。また、ボランティア養成座への参加者数も増やすことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に引き続き、八潮市や吉川市へのPR活動を進めていく。 ・今年度はホームページのデザイン・発信情報の分類について改善を行った。次年度は、スマートフォンによる閲覧を意識し、必要な情報が迅速に得られる配信に努めていく。 ・学区内の小・中学校からの相談内容が多様化している傾向にあることから、行政や関係団体との連携を更に深めていく必要がある。
3	昨年度は、避難訓練、及び引き取り訓練を通じ、災害時の対応について整備を進めた。今年度も災害を想定した訓練を実施し、また校内の施設設備の安全性について、日々確認をしていく。 アレルギーを有する児童生徒が増加傾向にあり、その対応方法が多様化してきていることから、アレルギーの特性と対応方法について情報共有する必要がある。	・安心・安全な学習環境づくりの推進	<ol style="list-style-type: none"> ①災害訓練の重要性について理解を深め、具体的な災害を想定した訓練を実施する。 ②毎月実施される安全点検を基に、平日頃から安全に対する意識を高め、危険が予想される箇所を発見したら職員朝会で共有し、改善する。 ③アレルギー対応に関する研修を行い、更に共通理解を深める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①災害訓練の意義やその重要性について、職員の理解を深めることができたか。 ②校内の危険箇所について、共通認識を図れたか。 ③生徒一人一人のアレルギー特性について、教員の対応力が向上したか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①避難訓練や引き取り訓練等とおして、災害時の対応について理解を深めることができた。 ②毎月初めに、全職員による安全点検を実施し、修繕等が必要な箇所については迅速に対応した。 ③アレルギー対応に関する研修を通して教職員の意識を更に向上させることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は台風災害時の対応を教訓として、今年度災害時の対応判断基準を作成した。来年度はこの基準を運用しながら改善を加え、災害時の円滑な対応に備える。 ・災害時の対応として、備蓄品については行政と連携を深め、アレルギー対応が必要な児童生徒への対応についてはPTAと協力して検討をしていく。

学校関係者評価
実施日 令和2年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>学校の中核となる第1項目目が満足しているという意見が多いので、学校として評価できると思う。個別に対応すること自体は特別支援学校の核となる部分であると思うので、今後も学校と保護者の間で児童生徒の実態の認識に差が生じることがないように、保護者との連携を密にしながら授業をおこなって欲しい。</p> <p>来年度から新学習指導要領が導入されるので、引き続き教職員の研修にも力を入れ、しっかりと取り組んで欲しい。</p>
<p>学校ホームページは、学校での児童生徒の活動の様子が良くわかってよいと思う。</p> <p>センター的機能については、非常に助かっている。コーディネーターという専門家からの意見や助言がもらえると、保護者にも話がしやすくなり、支援学級や支援学校を進めやすくなり感謝している。引き続き連携・協力をお願いしたい。</p> <p>昨年は災害が多く、埼特P連や全知P連でもよく話題に上った。他校を参考にしながら、本校にあった方策をPTAとしても考えていきたい。ただ、学校だけでもPTAだけでも限界があるので、一緒に連携していけたらと思う。</p>